

## 神奈川の水素ビジョン（案）に対する意見と対応

該当箇所	意見	対応
1 「神奈川の水素ビジョン」策定の趣旨 (2) 「神奈川の水素ビジョン」の策定	2022（令和4）年2月のロシアによるウクライナ侵略により、世界のエネルギー需給構造に地殻変動が起きたことなどを受けて、国は、2023（令和5）年6月に「水素基本戦略」を全面的に改定しました。 → 世界エネルギー市場の変化に対応した水素基本戦略の改定であり、本記載はウクライナ侵略が起きたがために改定したと捉え兼ねません。ウクライナ侵略をあえて記述する必要はないのではと考えます。もしくは他の要因も加えて、…等、と記載して頂くと良いと考えております。	国の「水素基本戦略」の第1章「1-1. 水素基本戦略の位置づけ」で、改定に向けた大きな節目としてウクライナ侵略が挙げられているため、原文ままとさせていただきます。
2 脱炭素社会における水素の役割 (2) 水素の特徴と役割	「概要版」で、ブルー水素の定義が「CCS等の技術により製造過程のCO <sub>2</sub> をできるだけ回収」とある → 「本文」では「CCUS」と記述もあり、「CCS等」と異なる技術と捉え誤解を招く可能性があると考えます。どちらかに統一するか、注記を入れるなどが良いと考えます。	ご意見を踏まえ、CCS、CCUSに関する記載を修正しました。
4 2030年度を見据えた主な取組 (1) モビリティ分野の取組 等	県内の水素ステーションは2024年（令和6年）3月末に9箇所となる予定です。 県内の移動式水素ステーションは2024年（令和6年）3月末に全て廃止予定 → 神奈川県としての決定事項であれば、予定・計画の記載は妥当と考えますが、民間企業における決定であれば触れる必要は無いと考えます。また、県の施策で廃止するのであれば、廃止・水素ST数の削減がされることについて理由を述べる必要があるのではないかと思います。	県内の移動式水素ステーションの廃止は、県が決定できる事項ではなくかながわ次世代エネルギーシステム普及推進協議会会員でもある事業者様での決定事項ですが、記載する情報は正確を期す必要があるため、原文ままとさせていただきます。
4 2030年度を見据えた主な取組 (1) モビリティ分野の取組	乗用車、バス、トラックなど水素を燃料とした自動車以外の分野にも水素利用が進んでいった場合の供給インフラについても整備が充実できれば、今後の水素普及に繋がるのではと思いました。	本ビジョンでは、自動車だけでなくエネルギー転換部門、産業部門、業務・家庭部門での水素需要の拡大と水素供給体制の構築を行うこととしていますので、いただいた御意見の内容を含んでいます。
3 2050年の目指すべき姿と基本方針 (1) 2050年の目指すべき姿	「メタネーションにより水素と大気中のCO <sub>2</sub> から製造した合成メタン」から「メタネーションにより水素と大気中のCO <sub>2</sub> 等から製造した合成メタン」に修正。 → 経済産業省の「総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会」における検討で都市ガスのカーボンニュートラル化に資する手立てとして、産業排ガスから回収したCO <sub>2</sub> の利用も挙げられているので、「大気中のCO <sub>2</sub> 」に限定しないことが望ましいと考えます。	ご意見を踏まえ、メタネーションに関する記載を修正しました。
2 脱炭素社会における水素の役割 (2) 水素の特徴と役割	【CCS・CCUSの概要】の図の変更ないしは改訂が必要と考える。 → 資源エネルギー庁のホームページの図面にはCCSやCCUSの説明は書かれてなく、この図は神奈川県側が挿入したと思料する。しかし、資源エネルギー庁側のこの図を示した意図はCCSの説明に過ぎず、水素もCCUも想定していない図面である。	ご意見を踏まえ、CCS、CCUSに関する記載を修正しました。

## 神奈川の水素ビジョン（案）に対する意見と対応

該当箇所	意見	対応
2 脱炭素社会における水素の役割 (3) 水素の特徴と役割	CCS、CCU、CCUSの語句の用い方が適当ではないため、これを改訂した方がよい。併せて、図の改定もすべきであるとする。P. 8、9、10に記載のある「CCSやCCUSの技術」は「CCSないしはCCUの技術」に変更するべきではないかと考える。	ご意見を踏まえ、CCS、CCUSに関する記載を修正しました。
2 脱炭素社会における水素の役割 (3) 水素の特徴と役割	最初からグリーン水素をあきらめている感が強いので、「グリーン水素を前提、基本としながら」といったニュアンスにしてほしい。	国の「水素基本戦略」では、「グリーン水素」ではなく色によらない低炭素水素への移行が示されていますので、原文ままとさせていただきます。
3 2050年の目指すべき姿と基本方針 (1) 2050年の目指すべき姿	CCSやCCUSに「水電解装置」を追加してほしい。	ご意見を踏まえ、「2050年の目指すべき姿」に「水電解装置の技術開発」を追記しました。
3 2050年の目指すべき姿と基本方針 (2) 「水素社会」実現に向けた基本方針	「関連商品の導入等を通じて」の意味が分かりづらい。	ご意見を踏まえ、「概要版」の当該記載を修正しました。
4 2030年度を見据えた主な取組 (2) 家庭やオフィスなどにおける取組	家庭においては、水素パイプライン敷設は現実的ではない。そのため、家庭用燃料電池は、都市ガス改質水素を使用することが前提となるので、脱炭素にならない。	都市ガスにおいて、メタネーションにより水素と大気中のCO <sub>2</sub> 等から製造した合成メタンの利用が進んだ場合、脱炭素化することができますので、原文ままとさせていただきます。（「本文」11ページ参照）
2 脱炭素社会における水素の役割 (3) 水素の特徴と役割	ここにグリーン水素を目指すことは記載すべき。	国の「水素基本戦略」では、「グリーン水素」ではなく色によらない低炭素水素への移行が示されていますので、原文ままとさせていただきます。
3 2050年の目指すべき姿と基本方針 (1) 2050年の目指すべき姿	CCSやCCUSに「水電解装置の技術開発・大型化」を追加すべき。これを入れないと、ブルー水素前提に見える。	ご意見を踏まえ、「2050年の目指すべき姿」に「水電解装置の技術開発」を追記しました。
3 2050年の目指すべき姿と基本方針 (2) 「水素社会」実現に向けた基本方針 「事業者の役割」	「水素を活用した製品」→「水素を扱う製品」、 「水素を活用した商品の導入等」→「化石燃料を使う商品から水素を活用した商品の導入・切替等」に修正すべき。	ご意見を踏まえ、当該記載を修正しました。
4 2030年度を見据えた主な取組 (2) 家庭やオフィスなどにおける取組	エネファームは都市ガス改質前提での省エネ機器の位置づけのため、今後の目指すビジョンに含めるのか、賛否があるように思われます。	都市ガスにおいて、メタネーションにより水素と大気中のCO <sub>2</sub> 等から製造した合成メタンの利用が進んだ場合、脱炭素化することができますので、原文ままとさせていただきます。（「本文」11ページ参照）
4 2030年度を見据えた主な取組 (3) 工業地帯などにおける取組	『「みなとみらい水素プロジェクト」設立』は1年限りなので削除	ご意見を踏まえ、当該記載を削除しました。
4 2030年度を見据えた主な取組 (3) 工業地帯などにおける取組	脱炭素イノベーション協議会の【構成員】は必要性がうすいので削除	ご意見を踏まえ、当該記載を削除しました。
4 2030年度を見据えた主な取組 (5) 機運の醸成	水素燃料電池アシスト自転車は必要ないのでは。自転車は家庭で充電できる「電気」がよい。	将来的に水素充填環境が整備されれば、水素燃料電池アシスト自転車の実用化することも考えられます。将来的な技術の可能性の一例として記載しているため、原文ままとさせていただきます。
かながわ次世代エネルギーシステム普及推進協議会	かながわ次世代エネルギーシステム普及推進協議会の要綱等が追加されているが、特に別表（会員）について、頻繁に社名や構成員が変更になる現状を鑑み、本案に記載しないほうが良い。本項目は削除すべき。	ご意見を踏まえ、「かながわ次世代エネルギーシステム普及推進協議会の設置及び運営に関する要綱」の別表（会員）に時点を追記しました。